三陸国道事務所

【宮古箱石工区】

工事発注後の遅延リスクを回避し事業期間を短縮

➢ 現地調査で工事用電力の不足を予想し、スムーズな工事着手を支援

気づき

・PPPチームの施工担当技術者のこれまでのトンネル工事経験（約35年）から、現地の電力線の太さでは当該区間で計画されている複数のトンネルを同時施工するための電力の不足が予想され、事業工程の遅延が懸念

≪解決のための課題≫

・配電線の新規引込に時間がかかるため、工事着手前に必要電力を確保

気づきを踏まえた取り組み

- トンネル施工に必要な電力量を算定
  （トータル使用電力　4，706kw）
- 電力会社に現供給可能電力量を確認
  （供給可能電力量　4，000kw）
  ⇒供給量の不足が判明
- 工事用電力確保に向けて電力会社と事前協議し、工事発注前に需給仮契約を締結

効果

◆ 工事発注前に必要な電力量の需給仮契約を締結することにより、スムーズに工事着手（当該工区の場合、約１年短縮）

現地状況



・トンネル本数が多い
・現地調査でトンネル受電箇所の電力幹線を確認

電線の太さから供給可能電力量が不足すると想定

気づきを踏まえた検討結果

